

## Contents

表

- ・ 病院長からご挨拶
- ・ 患者支援センター長からご挨拶
- ・ 病院年報を発行
- ・ 市民向け講演会

裏

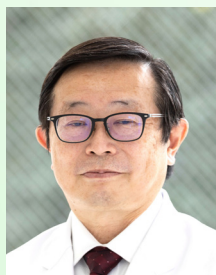
- ・ 診療科紹介
- ・ 就任教授紹介



編集：杏林大学医学部付属病院  
杏林学園広報室  
〒 181-8611 三鷹市新川 6-20-2  
Tel 0422-47-5511( 代表 )



## ■ 病院長からご挨拶



医療面においても様々な社会情勢の変化がある中、令和7年度が始まりました。地域の高度急性期医療を担う当院では、今まで以上に救急患者さんならびに紹介患者さんの受け入れを円滑にする使命がございます。そのため今年度より、一次・二次救急外来（救急総合診療科）から各専門診療科へつなぐ仕組みを強化いたします。

初診申込みは昨年12月より患者さんからもウェブで申し込めるようにして利便性向上を図りましたが、さらに本年度から次年度にかけて、PFM（Patient Flow Management）センターを立ち上げ、従来の入退院支援室や周術期管理センター、各種相談窓口、連携室も含めた包括的な患者支援と病床管理のシステム化を図っていく予定です。これらの取り組みを通じて、地域医療連携を一層強化するとともに、ACP（Advanced Care Planning）など地域社会との情報交流も進めて参ります。「地域に根ざした大学病院」の本院として引き続き活動してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長 近藤 晴彦

## ■ 患者支援センター長からご挨拶



平素より当院に患者さんをご紹介いただき、また受け入れていただきありがとうございます。患者支援センターは地域の医療機関と連携して患者さんの外来受診、入院、退院後の医療・療養環境の調整、その他様々な支援を行っております。この度は患者支援センターから以下の3点についてご報告いたします。

①従来のFAX・電話予約に加えて、昨年5月からは登録医の先生方によるウェブ予約申込みを、12月からは一般医療機関の先生方と患者さんによるウェブ予約申込みを開始いたしました。おかげさまで多くの先生方と患者さんにご利用いただいております。

②毎年開催しております杏林大学医学部付属病院医療連携フォーラムですが、今年は昨年同様の形式で10月に開催する予定です。詳細はホームページ等でご案内いたします。

③昨年4月に杏林大学医学部付属杉並病院が開院いたしました。本院との連携の下、本院同様先進的で高度な医療を皆さまに提供しておりますので、こちらもご利用ください。

本年も先生方と連携しながら、患者さんに満足いただける医療を提供したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

患者支援センター長 神崎 恒一

## 2023 年度 病院年報を発行

当院の医療の質・自己評価、各診療科の診療体制や先進医療への取り組み、診療実績などを紹介しています。

本誌は医師会や地域の医療機関等へお届けしています。また、病院HPでもご覧いただけます。（2025年3月発行）



## 5 月市民向け講演会

| 日時・会場                                        | テーマ・講師                                                                             |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月17日（土）<br>14時～15時30分<br>杏林大学病院<br>定員：10人   | がんと共にすこやかに生きる～ミニ講座・患者交流会<br>【脱毛やウィッグに悩んでいませんか？】<br>専門家を招いてお話や試着体験を行います<br>参加無料、要申込 |
| 5月17日（土）<br>13時～16時30分<br>三鷹産業プラザ<br>定員：150人 | 【腎臓について考えるフォーラム】<br>腎臓・リウマチ膠原病内科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカーが講演します<br>参加無料、申込不要、先着順  |
| 5月24日（土）<br>14時～16時<br>杏林大学病院<br>定員：100人     | 杏林医学会市民公開フォーラム<br>【元気に長生き！健康長寿アップ講座】<br>医学部予防医学教室 教員<br>参加無料、要申込                   |

※詳細および6月以降の予定は病院HPのお知らせをご覧ください

## 診療科紹介

### ■ ■ ■ 麻酔科・ペインクリニック外来 ■ ■ ■

麻酔科では、2023年12月にペインクリニック外来を開設しました。毎週月曜日、水曜日、金曜日の午前9時30分から15時まで、外来棟5階で診察しています。これまでに近隣の先生方のご協力の下、2025年3月までのペインクリニック外来患者は2,009人、新規紹介患者は281人となりました。また、実施神経ブロック数1,581件、漢方処方549件と、様々なアプローチで痛みの治療を行っています。

痛み診療に難渋されている患者さんがいましたら、引き続きご紹介をよろしくお願い申し上げます。

#### 【対象となる痛みの疾患】

頭痛疾患：片頭痛、群発頭痛、緊張型頭痛

顔面痛：三叉神経痛

脊椎疾患：椎間板ヘルニア、頸椎症、椎間関節症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間関節症

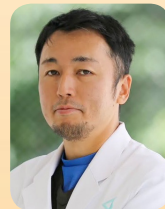
外傷性疾患：外傷性頸部症候群（むちうち）、幻肢痛

筋骨格系疾患：筋筋膜痛症候群、変形性関節症、凍結肩、腱板断裂

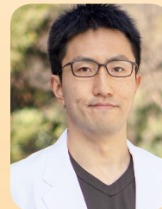
血管性疾患：閉塞性動脈硬化症

神経障害痛：帯状疱疹後神経痛、糖尿病性神経障害

難治性痛：複合性局所疼痛症候群、遷延性術後痛、会陰部痛、癌性疼痛



学内講師 渡辺邦太郎



助教 澤田龍治

### 2025年4月就任教授のご紹介

#### 脳神経外科 〔教授〕

田中洋次



東京医科歯科大学（現東京科学大学）卒業 博士（医学）  
東京医科歯科大学、エモリー大学等を経て、2025年着任

脳卒中や頭部外傷などの神経救急疾患に対する迅速な対応、良性・悪性脳腫瘍に対する集学的治療など、あらゆる脳・神経疾患に対して最良の治療が提供できるよう体制を整えてまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 血液内科 〔教授〕

荒井俊也



東京大学卒業 博士（医学）  
東京大学医学部附属病院、東京警察病院を経て、2024年着任

血液内科は多摩地区の基幹施設として、血液腫瘍から希少難病、そして些細に見える血球数の異常まで、血液内科診療の隅から隅までオールラウンドに対応しています。しかし我々だけでは無力で、よい診療にはあらゆる皆様との円滑な連携が欠かせません。ご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 循環器内科 〔教授〕

村田光繁



慶應義塾大学卒業 博士（医学）  
慶應義塾大学病院、ジョンズホプキンス大学リサーチフェロー、東海大学医学部付属八王子病院等を経て、2025年着任

昨今の循環器診療ではカテーテル治療を中心とした高度医療の進歩が目覚ましく、高齢社会において不可欠な治療となっています。当科では患者さんの負担の少ない低侵襲治療を積極的に実施しており、多摩地域の医療機関との連携を強化し中核病院としての役割を果たしてまいります。

#### 泌尿器科 〔臨床教授〕

多武保光宏



杏林大学卒業 博士（医学）  
杏林大学病院、東芝病院、奈良県立医科大学を経て、2004年着任

泌尿器科では、尿路および男性生殖器の疾患に対し内科的・外科的治療を提供し、特に尿路結石症の内視鏡手術およびロボット支援手術を専門としています。患者さん一人ひとりに最適な医療を提供できるよう努めてまいりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

#### 呼吸器・ 甲状腺外科 〔臨床教授〕

橋本浩平



慶應義塾大学卒業 博士（医学）  
慶應義塾大学病院、トロント大学胸部外科リサーチフェロー、クリニカルフェロー、がん研有明病院等を経て、2023年着任

当科の肺癌手術数は都内トップレベル（都内6位）で、ロボット手術や周術期治療などの最新治療もいち早く取り入れてきました。安全性に配慮しつつ更に手術数を増やせるよう活動します。移植技術を活かした拡大・複雑手術や気道手術の技術で、西東京地区の困難症例の最後の砦としても更なる発展を目指します。

#### 耳鼻咽喉科・ 頭頸科 〔臨床教授〕

増田正次



慶應義塾大学卒業 博士（医学）  
慶應義塾大学病院、カリフォルニア大学サンディエゴ校ポストドクトラルフェローを経て、2010年着任

聴覚異常、耳管機能障害、遺伝性難聴、補聴器診療、耳科手術を専門としております。多摩地域における、専門性の高い医療の提供に加え、調整に時間を要する補聴器診療にも、丁寧で親しみのある医療を提供できる体制づくりを心がけております。地域の皆さまのお力になれるよう努めてまいります。

#### 産婦人科

〔臨床教授〕

森定 徹



慶應義塾大学卒業 博士（医学）  
慶應義塾大学病院、さいたま市立病院、国家公務員共済組合連合会立川病院等を経て、2021年着任

産婦人科は、周産期、生殖内分泌、婦人科腫瘍、女性ヘルスケアの領域を包含し扱われる疾患は多岐にわたりますが、子宮頸がん/子宮体がん/卵巣がんによって代表される婦人科悪性腫瘍を含めて婦人科領域の疾患全般を専門として診療しております。常に最善の医療を提供できるよう努めてまいります。

#### 麻酔科

〔臨床教授〕

関 博志



慶應義塾大学卒業 博士（医学）  
慶應義塾大学、ハーバード大学リサーチフェロー、東京歯科大学市川総合病院等を経て、2020年着任

現代の麻酔科には術中の麻酔管理だけでなく、手術決定から退院に至る周術期全体をオーガナイズすることが求められています。最新の知見と技術を取り入れた、質の高い周術期医療を提供できるよう研鑽に励み、若手の教育にも取り組んでまいります。

#### 麻酔科

〔臨床教授〕

中澤春政



杏林大学卒業 博士（医学）  
葉山ハートセンター、ハーバードメディカルスクールマサチューセッツ総合病院リサーチフェロー等を経て、2016年着任

この度、臨床教授を拝命いたしました。母校においてこのような機会を頂けたことを非常に光栄に思います。麻酔科医として、全ての手術患者に安全で快適な手術を提供することを目指し、地域医療の発展に少しでも貢献できればと考えております。甚だ若輩ではございますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

#### 医療安全推進室

〔室長、医学部総合医療学教室臨床教授〕

武井秀史



浜松医科大学卒業 博士（医学）  
国立東静岡病院、国立がんセンター中央病院、横浜労災病院、昭和大学等を経て、2024年着任

病院の医療安全は職員の日々の活動に支えられています。新たな技術や治療法、薬剤の開発が進み、常に変化を続ける医療現場の中で、どのようにして安全性を確保し、最新の知識と技術をもって患者さんに対応するかは、重要なテーマです。医療安全を推し進めるために心理的安全性の高い環境作りに努めてまいります。

